

茜浜緑地・海浜公園の親水計画

千葉工業大学 学生員 岩館 広彬
 千葉工業大学 正会員 篠田 裕

目的

習志野市の緑の軸とも言えるハミングロードの終着点である茜浜緑地・海浜公園は、市内唯一のウォーターフロントとしての潜在的魅力により多くの人を集めることが可能である。魅力的な緑の空間、ウォーターフロントとすることにより、身近な憩い・レクリエーション・コミュニケーションの場として、市民に積極的に訪れてもらえることが期待できる。

しかし、この茜浜緑地と海浜公園の現状は、アスファルト舗装ははがれ、ゴミが散乱する護岸の海岸線であり憩いの場、散策の場とは程遠い状況である。

そして、訪れる際には、多くの人が進むこととなる、ハミングロードも、アスファルト舗装ははがれ、乾燥した土がむき出しになった状態である。

本研究では、これらの現実をふまえ、茜浜緑地・海浜公園を拠点として、市民が快適に憩えるような空間を再構成することを目的とした。

計画地

千葉県習志野市茜浜3丁目・芝園3丁目(図1)

面積	茜浜緑地	84,270 m ²
	海浜公園	23,568 m ²

1980年代の埋め立てにより造成された土地であり、工業地帯内に位置している。周囲を工場・物流倉庫で囲まれている。習志野市を縦断するハミングロード(図2)の終着点である県道15号線に面しており、広範囲からのアクセスが容易である。

ハミングロードは、千葉市との境界線でもある東習志野から市内中心部を通り、茜浜の海岸までの約12kmに及ぶ長い緑の散歩道と位置付けられている。

計画地現状

隣接する千葉市・船橋市に人を集める公園がある中、整備不良・魅力の不足が感じられる。当該公園は人の出入りが少なく、回遊性の欠如が見られ、人の密度の



図1 敷地所在地



図2 ハミングロード全景

高いところ低いところの差が大きく死角が多い。テトラポット付近には多くのゴミの散乱、不法投棄があり、ゴミが堆積している。また、テトラポットの先まで乗り出して釣りをしている人や、バイクの乗り入れも頻繁に見られ、大変危険な場面に遭遇することがある。

計画概要

人々が無意識のうちに魅力を感じ、自然と集まってくる海に面している敷地である。海と人が近くに感じられる癒しの場として市民が訪れ有効に活用してもらえるような臨海公園をめざす。公園としての魅力の向上、安全・快適な空間となるような改良案を提案する。

設計計画

- ・ 市民団体によるイベントや、音楽会等の催し物が簡

キーワード：茜浜緑地、屋上緑化、植生の選定、水循環計画

〒275-8588 千葉県習志野市津田沼2-17-1 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 TEL 047-478-0446、FAX 047-478-0474

単に行えるように、ステージの設置と汎用性のある長方形のグラウンドとする。

- ・ 菊田川、東京湾の姿を再認識して、水と人との距離を近づけ、親水性を高めるため、階段状の親水テラスの設置。
- ・ 公園の回遊性を向上するため、植栽の配置を変え、視界の開けた空間とする。菊田川により分断された2公園を、橋をかけることにより、大きな一つの公園のように使う。
- ・ パークゴルフ場が閉じているような状態であるので、公園利用者が視界にはいるようにして、興味を持つ機会を作ることで、施設利用者の増加に繋げる。

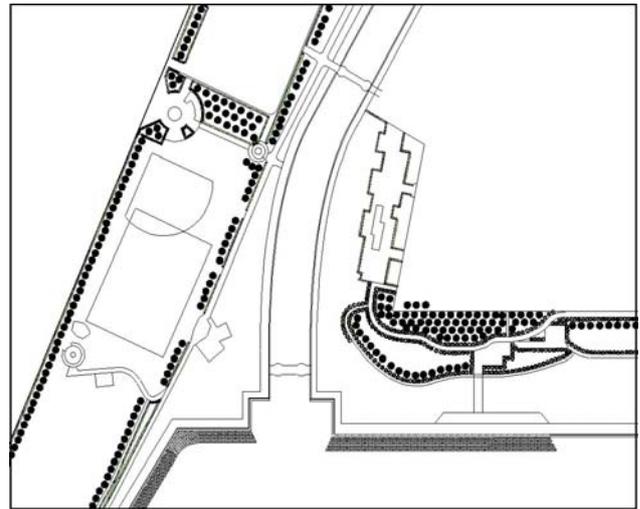


図3 公園平面図

以上のような条件から、親水性をもった茜浜緑地・海浜公園の計画をたてた。図3に公園平面図を示す。

表1 市民参加型緑の維持管理プログラム

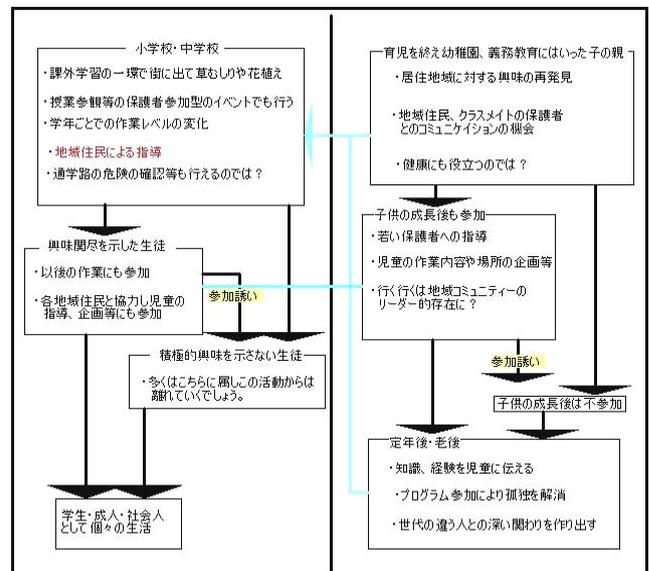
緑の市民参加型維持管理プログラムの提案

高邁な条件から計画を立案しても、利用者の訪れ、不
断のメンテナンスが無ければ、計画は画餅に終わる。そ
こで、公園の維持管理を役所に任せるのではなく、市民
参加によるメンテナンス組織を立案する。

都心のベッタタウンとしての性格が強い習志野市、し
たがって生活リズムの差異があり、ボランティア活動に
興味があろうとも参加が難しい人も多い。そこで新規参
加や単発での参加も可能で、何度もプログラムへの回帰
が出来る場を作る事や、義務教育の課外学習などに取り
入れ、NPO 団体や地域住民と共に作業することで、コミュ
ニケーションと作業レベルの向上をはかる。作業に変化
をつけ飽きをなくすこと、幼いころから地域活動に参加
することにより、自分たちの街であることを意識させ積
極的な活動への回帰を期待する。また、親として子供と
の作業参加により、居住地域への関心を持ってもらうこ
ともできる。

このように、世代が循環し引き継がれていく事を目的
とし、多くの人の手を使い各居住地域全体を安全と緑で
覆う事ができるとの考えで、表1のようなプログラムを
考えた。

幼いころに地域活動を経験することによって興味や関
心、参加することが普通という意識醸成させる。しかし
成長につれ活動から離れるひとは多いはずであるが、成
人となり子の親として、幼いころと同じような経験をす
ることにより活動への回帰の機会を与えることで、再び、



積極的な活動参加を望める。

また、リタイアした高齢者の参加によって高齢者問題
の改善にも役立つことも期待できる。

まとめ

茜浜緑地・海浜公園の現状を見て、その公園として
の機能の回復を中心とした計画をたてた。その過程で
気が付いた事は、立派な施設が完成しても、その施設
を維持管理するためには、従来のような第3セクター
方式の役所主導の管理では限界があるということであ
る。そこで「市民参加型緑の維持管理プログラム」を提
案するに至ったが、「地域との協働」を謳っているものの、
官との協働は多くの問題の解決と意識改革の時間が、必
要となりそうだ。